

アンディ・ボンディ博士との質疑応答集 # 1

以下の質疑応答は、京都 PECS 研究会で出た疑問をメールでボンディ博士に送って回答していただいたものです。今後も続けていく予定です。

Date: Mon, 11 Sep 2006 22:28:34 +0900 (e-mail で質問)

Date: Tue, 12 Sep 2006 09:48:15 -0400 (e-mail で回答)

Q1 好子にお菓子などを使った場合。子どもがまだ食べている最中に絵カードをもどしたら、子どもは絵カードを弄び始めました。どうすべきでしょうか？

A1 好子をまだ楽しんでいるのに絵カードで遊び始めたら、プロンプターは背後からやさしくその行為をブロックすればよい。ひとつには、絵カードで遊ぶことがその子どもにとってどれくらい強化力があるかによります。とても強化力が強い場合は、遊び用に別の絵カードを渡すのも一法です。ただし、コミュニケーションのために使うのは PECS の絵カードだけです。しかし、いずれにしても私なら、遊びにあまり注意を向けさせたくないの、何らかの形でただ妨害するだけにします。

As to your questions, if a child starts to play with the picture while still enjoying the reinforcer, the physical prompter can gently block that action from behind. In part it depends upon how reinforcing it is for the child to play with the pictures- if it is very reinforcing we could give him other picture-cards to play with but only use the PECS pictures to communicate. But in any event I would not draw much attention to the play- just interfere with it in some manner.

Q2 マニュアルの p.72, 下から 16 行目。「パートナーは、子どもがアイテムか絵カードのどちらかに手を伸ばしてきたときだけ、子どもに手を開いて見せます。」
("The communicative partner continues to show the student her open hand only when the student reaches for either the item or the picture.") の箇所を説明してください。

A2 ここでの大事な点は、子どもがアイテムか絵カードかのいずれかに手を伸ばすまでは、自分の手を開いてはいけないということを、コミュニケーション・パートナーに忘れないでいてほしいと言うことです。もし、子どもが手を伸ばす前にコミュニケーション・パートナーが手を開いてしまうと、それがプロンプトになってしまいます。手を開くのは、子どもが好子に反応してから（つまり好子に手を伸ばすことで）、あるいは絵カードに手を伸ばし始めてからにしなければいけません。開いた手は子どもにとって、絵カードをどこに置くかを思い出すための単なるリマインダーに過ぎないのです。

The point of the line on page 72 is to remind the communicative partner not to open her hand before the child reaches for either the item or the picture- if her hands is open before he reacts then it is a prompt. Her hand should open after he has reacted to the reinforcer (by reaching for it) or started to reach for the picture- the open hand is merely a reminder for the child as to where to put the picture.

Q3 マニュアルの p.6 ,下から 3 行目が括弧の中の文はどういう意味なのでしょう？

A3 芸術鑑賞についてのこの箇所では、芸術鑑賞の授業をとったときに、芸術を鑑賞することを学ぶのに何ほどか時間が必要だったということを、読者に思い出してほしいのです。最初の授業でそれができるようになったわけではないでしょう。でも次第次第に美術館のようなところに行くのが好きになっていったのではないのでしょうか。それは、芸術の授業が好きだったかどうかとは関係ないことです。この箇所は、どのように私たちが徐々に芸術（鑑賞）が好きになっていくかについての記述です。

The line about art-appreciation is intended to remind readers that when we took an art-appreciation class it took some time for us to learn to appreciate art- it may not have happened in the first class but we gradually came to like going to art museums and the like. It is not related to whether we liked the art class- it is about how we gradually learned to like (appreciate) art.